



# のびのび若っ子

子どもを真ん中に、パートナーとして

校長 中島 早苗

6月の段階的な学校再開から二か月がたちました。7月からは給食が始まり、午後の授業も開始しました。給食時は、階段の密を防ぐために、放送の指示を聞き時間差をつけて給食を取りに行き、返却します。感染拡大防止のために、様々なルールはありますが、それでも多くの子ども達が給食の時間をとても楽しみにしています。1年生は、初めて食べるメニューも多いようですが、お碗やお皿をしっかりと押さえ味わって食べている姿、「今まで食べられなかったのに食べたらおいしかったよ。」と誇らしく語る姿が何とも愛しく感じます。

今月は、事前の消毒や活動場所の工夫をした上で、今年度初めてのクラブ、委員会、代表委員会を行いました。第1回の代表委員会の議題は「学校の年間スローガンを決めよう」でした。

「分散登校から始まり、一か月半がたちました。みんなの笑顔が増えています。この状況だからこそ学校全体のスローガンを作った方がよいと考え、団結するとよりよい学校になると考え、提案します。」

これは、代表委員会の原案に児童が記した提案理由です。また「スローガンの達成を目指す事で、若小がより一体になってほしい」とも記されています。運営委員の進行のもと4年生以上の各学級代表と委員会代表が、互いの意見を受け止めながら、真剣に考え、時には笑顔を交え明るく発表する姿からは、子ども達の「自分も」「みんなも」ともに成長したいという思いを感じることができました。

いよいよ明日から2週間の夏休みが始まります。6月からの学校再開、夏休みの短縮、学校行事の精選によって授業時数の確保が、年間指導計画の工夫によって前年度の休校で学べなかった内容を含め、学習内容が年度内に終わられる目途がたっています。学習内容をただ終えることに意味があるのではなく児童の理解を見極めて授業づくりをしていくことは、今年度この状況でも変わりはありません。異例のスタートから始まった今年度ですが、子ども達はこの二か月間、本当によく頑張ったと思います。短い2週間の夏休みです。本校では、児童が自主的に取り組むことは別として、今年度は夏休みの宿題を出すことは見送りました。この2週間を好きな本を読むことや、様々な体験をすること、心や体を休めることに使ってほしいと思います。

7月までの二か月間、児童に寄り添い続けてくださった保護者の皆様、登下校や地域で見守り続けてくださった地域の皆様には心よりお礼を申し上げます。学校、家庭、地域と、それぞれの役割は違いますが子どもが育まれる居場所であることは共通です。今後も大切な子どもを真ん中に、学校、家庭、地域がパートナーとして、ともに育てなければと感じます。よろしくお願ひいたします。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切に作る心を育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』